

J T U

埼玉高教組

ニュース

NO. 651

発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギンタビル4F



くじら

教育復興に向けて支援の輪を広げよう！

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

## 埼玉教育研究集会 ～ 3年ぶりの通常開催 ～

『現代の貧困問題から問い直す  
学校の役割』 講師 藤田孝典氏

10月23日、国立女性教育会館(ヌエック)で教育研究集会が行われた。午前中の全体会では、聖学院大学で教鞭をとられている藤田孝典氏(人間福祉学部客員准教授)に講演していただいた。氏は生活困窮者への支援活動や提言を行っている方であり、テーマはコロナ禍における貧困の問題であった。コロナ禍で職を失ったという話はよく耳にする。しかし、幸いなことに、担当している学年の生徒の家庭を含め、私の周りではコロナ禍で収入が減ってしまったという人はいるが、実際に職を失うまでになった人がいないので、あまり実感がなかった。ただ今回、藤田氏の講演を聞き、学校外の社会では職を失っている人がいる現状がよくわかった。免許の有無に関わらず非正規の教員を募集しても集まらない教育現場の状況からすればなんとも言えない思いであった。

氏の講演を聞いて特に印象深かったことがある。一つは、社会保障制度について知識がない人が職を失い、生活が困窮するとすぐに自殺するという発想になってしまうということである。また、生活保護を利用できるにもかかわらず、利用すると迷惑がかかってしまうから利用しないという方がいるとの話があり、社会保障制度についての知識はしっかりと教えないといけないのではないかと思われた。

もう一つは、高校中退者が非正規雇用者になりやすいということである。一定数の人が非正規雇用者になってしまう現実があり、そうなりやすい人との関係に学歴があるとの話があった。大卒よりは高卒の方がなりやすく、そして高校中退者になる率が高く、高校中退は本当にまずいと強く主張されていた。

現在の勤務校で2学年を担当しているが、ここに至るまでかなりの退学者が出てしまった。今回の公演を聞き、彼らの今後はしんどい道になってしまいうのであろうと改めて思われた。このことを思うと、この先、簡単にやめるという選択肢ではなく、なんとか高校卒業の証は持たせてあげないといけないと感じた。

午後は各教科等に分かれ分科会が行われた。私は特別分科会に参加し組合活動について様々な話しをした。正直、休日に組合活動をするのはしんどい部分がある。しかし、参加して後悔したことはない。今回、ヌエックまで行くのは遠く、腰が重かったが、来てみてよかったと思えた1日であった。



多岐に渡る活動報告を交えての講演

# 情報満載 くじら会議

組合では、組合員がいる学校を分会と呼ぶが、その分会の代表者が集り議論等を行うのが「くじら会議」である。現在は代表者に限らず、誰でも参加できる会議であるが、現場では得られない貴重な情報がもたらされる。10月29日に与野コミュニティセンターで行われたくじら会議の報告をしたい。

## 人事委員会勧告 定年延長 研修

人事委員会勧告は多くの県に倣い、月例給アップは若年層のみ(教育職給料表(1)の1級は79号給まで、2級は55号給まで)、ボーナスは4.30月から4.40月へと増だが、期末手当のため会計年度任用職員は対象外と、誠に不十分な内容だ。しかし、まだ勧告の段階で、これから県と組合が交渉を重ねていくわけで、少しでも改善させるよう取組んでいくことが確認された。

定年延長に伴う様々な事柄は、日教組からの全国情報も併せ考えてみても、何も決定していない状況だ。しかし、55才昇給停止が60才まで昇給するのか？定年が延びた分、退職金は増えるのか？退職金の算出時に使う給料表はどうなるのか？疑問は尽きないが、様々な情報を照らし合わせて考えていくことが肝要だ。

免許更新制廃止に伴う新たな研修について、埼

玉では会議が1回行われたに過ぎないが、こちらについても具体はまだない。新たな研修だけは避けなければと決意を新たにした。

## 各分会ではこんな問題が起こっていた！

くじら会議の特徴の1つに「分会からの報告と要望事項」がある。分会で問題が起きれば、こうした場で共有し、先輩組合員から適切なアドバイスがある、なかには、その校長とは同期で、昔はこういう事をやっていたなんていう情報ももたらされる。今回は、人事のバランスが悪い、コロナで閉鎖が相次いでいる、宿泊学習の下見を突然認めないと校長が言い出したなど、多岐に渡って報告がなされ、その都度修羅場を経験してきた組合員がアドバイスをしたりして一定の意見交換が出来た。

人事異動については、方法が変わってきたのではないかということや、校長に騙されないように希望の人事とするにはどうしたらよいかなど、ここでは明かせないことも含め情報共有がなされた。

また、特別編として共育共生部による、国連勧告(ニュース前号に記載)についての解説がなされ、インクルーシブ教育をどう現場で行っていくかについて議論も行われた。こうした多様な取組みが行われているのがくじらである。是非、あなたも参加を！

どうとう私もコロナに罹ってしまった◆10月26日水曜日。いつものように本部に行ってパソコンの前で仕事し、一服するために第二庁舎の屋上に行った時、晴れていたのになぜか寒気を感じて、本部に戻ってからも寒気が収まらず、11時過ぎに一区切りつけたので早引きした◆寒気はするし、何だかダルいがまだ平熱。2時間ぐらい横になってから透析に行ったが、ダルさは収まらず、看護師さんに不調を訴え、透析終わり頃、体温を測ったら38度。その場で抗原検査をしてもらったら陽性◆「陽性になったら入院は出来ない。帰れる？」と聞かれ、まだダルかったが帰るしかないので帰宅した◆27日、病院から重症化防止用の薬を処方するが、いつもの



薬局には薬が無いのでこれから探して薬局から連絡しますと電話があり、しばらくすると薬局から電話があり直ぐに届けるとのこと。1時間ぐらいで薬が届き、朝晩4カプセルずつ飲んでくれと◆直ぐに飲んで寝て、夜また飲んで。食欲はあったので近所の同級生が差し入れてくれた物を食べて寝た。28日、体温は平熱に戻った◆まだ少し喉は痛かったが、熱が下がったのでダルさも無くなった。だんだん普通に戻っていく感じ。料理も出来るようになったので残り野菜で

カレーを作った◆何と言っても重症化予防の薬が効いたので、何となく普通のカゼのようだった。コロナも罹ってみたら普通のカゼだった、というのが今の感想である(本部 木戸)